

第2回伊賀市総合計画審議会 議事概要

開催日時	2025（令和7）年6月27日（金） 14:00～17:00
開催場所	本庁舎 4階 庁議室
出席委員	岩崎 恭彦 （【1号委員】三重大学） 久 隆浩 （【1号委員】近畿大学） オチャンテ 村井 ロサ メルセデス（【1号委員】桃山学院大学） 片桐 新之介（【1号委員】合同会社 C. SSS コーポレーション） 奥井 公子 （【2号委員】公募委員） 山本 いずみ（【2号委員】公募委員） 高井 篤史 （【3号委員】伊賀市消防団） 奥西 利江 （【3号委員】社会福祉法人維雅幸育会） 荒井 恵美子（【3号委員】男女共同参画ネットワーク会議） 市川 寛 （【3号委員】伊賀市地域公共交通活性化再生協議会） 加納 圭子 （【4号委員】 — ）
欠席委員	朴 恵淑 （【1号委員】三重県地球温暖化防止活動推進センター） 成底 正好 （【2号委員】公募委員） 船見 くみ子（【3号委員】公益財団法人伊賀市文化都市協会）
議事日程	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）評価の実施手法について （2）外部評価の実施について ①健康・福祉分野 ②生活・環境分野 ③産業・交流分野 ④生活基盤分野 ⑤教育・人権分野 ⑥文化・地域づくり分野 ⑦計画の推進分野 総括 4 その他 （1）外部評価意見シートの提出期限 ：6月30日（月） （2）【第3回伊賀市総合計画審議会】 日時：令和7年7月25日（金）午後1時30分～ 場所：伊賀市役所5階501会議室 事項：第3次伊賀市総合計画最終案について、外部評価のまとめ及び報告書（案）について

議事概要	1 開会 （事務局）：定刻となりましたので、ただいまから、第2回伊賀市総合計画審議会を始めさせていただきます。 ★会議及び議事録公開の確認 （事務局）：会議の公開ですが、「伊賀市審議会等の会議の公開に関する要綱」第3条により、会議を公開し、会議の傍聴を認めておりますので、報道関係者の撮影等について、ご了解、ご理解をお願いいたします。 また、会議録についても公開させていただきますので、ご了解よろしくをお願いいたします。 ★会議成立の確認 （事務局）：本日の会議の成立でございますが、「伊賀市総合計画審議会条例」第6条第2項に基づき、委員の半数以上の出席をいただいておりますので、会議は成立しております。 ★資料の確認 （事務局）：配布資料の確認をさせていただきます。事前に郵送させていただきましたが、本日お持ちでない資料がありましたら、事務局へお申し出ください。 また、「委員名簿」、【参考資料3】「伊賀市総合計画審議会条例」は、本日、配布させていただきます。 2 あいさつ （事務局）：会長から挨拶をいただきます。 ＜会長＞：皆さん、こんにちは、よろしくお願いします。6月15日、総合計画と地域福祉計画の策定に係るタウンミーティングが開催されました。審議会委員からもご参加いただきました。本日は外部評価ということで、活発にご意見をいただければと思います。 （1）評価の実施手法について ＜会長＞：【資料1】「評価の実施手法」について、事務局より説明をお願いします。 — 事務局 説明— 【資料1】「評価の実施手法」 【資料2】「外部評価シート」 【資料3】「横断的な取り組み状況」
------	---

【資料４】「令和６年度まちづくりアンケート調査結果報告書」

【参考資料１】「施策評価シート（案）」

【参考資料２】「令和６年６月外部評価結果報告書」

＜会長＞：改めまして評価の視点、進め方の確認をさせていただきます。【資料２】「外部評価シート」をご覧ください。Ａ欄Ｂ欄Ｃ欄があり、着目していただきたいのはＡ欄とＢ欄です。

計画策定の観点では、事務事業を計画通りに進めていけば、計画最終年度には成果指標の目標が達成できている、という考えになっています。ただ、Ａ欄には、進展度が「◎」、「○」になっている事業と、「△」、「×」になっている事業があります。進展度「△」、「×」は令和６年度末には成果指標の目標が達成できていないということです、ここを中心に評価してください。

評価には、内部の評価者と全く同じ視点に立って行われるものもありますが、伊賀市で採用されている評価は外部評価で、内部の評価が適正になされているかを第三者の視点で評価するという方法を採用しています。進展度が「△」や「×」にもかかわらず、課題の抽出が適正でなかったり、改善案が示されていないものについては、評価の改善方策について皆様からご意見をいただきたいと思います。

（２）外部評価の実施について

＜会長＞：【資料２】「外部評価シート」の「分野１健康・福祉」について、事務局から説明をいただき、皆様からご意見をいただきたいと思います。

― 事務局「分野１健康・福祉」説明 ―

＜会長＞：以上で説明が終わりました。Ａ欄の進展度について、特に「×」や「△」と評価されているものに注意を払っていただきたいと思います。事務事業を計画通りに進め、成果指標の目標値を達成できた事業、また、事務事業を計画通りに進めているにもかかわらず、成果指標の目標が達成できていない事業について、Ｂ欄で課題の抽出が適切に行われているか、改善点の方向性が示せているか、ご意見をいただきたいと思います。

＜委員＞：１－１「地域共生社会づくり」の基本事業「共助のしくみづくり」、成果指標「地域福祉ネットワーク会議 開催数」について、進展度が「△」ですが、地域福祉ネットワーク会議間で、課題や成功事例などの共有が十分に図られていないと思います。

	＜事務局＞：課題の共有が十分に行われていないという点については、各課でも問題として認識しています。地域課題や地域福祉ネットワーク会議での課題を収集し、計画を策定していきたいと考えています。 ＜委員＞：地域福祉ネットワーク会議間で温度差がありますし、連携が不十分で、役割を果たせていないと思います。同じような会議を社会福祉協議会でも行っているの、連携する必要があると思います。 ＜委員＞：これらの課題の解決には、地域コミュニティの担い手である住民自治協議会が動かないといけないと思います。厚生労働省も言い方を変え、「地域包括ケアシステム」や「重層的支援体制」、「地域共生社会づくり」など、様々な概念ができ、地域に降りてきていますが、住民自治協議会はこれらを受け入れる立場ですので、上手く組み合わせて取り組んでほしいと思います。 地域包括ケアシステムは保健、医療、福祉が総合的に連携して機能する仕組みだと思いますが、評価も施策も縦割りになっていると感じます。地域福祉の分野では特に総合的に取り組む姿勢を持ててもらおうと課題解決につながると思います。 ＜会長＞：先日のタウンミーティングで、総合計画と地域福祉計画は同じ課題について話し合っているということが共有されたと思います。先日のタウンミーティングが今言っていた地域課題の解決のきっかけになると思います。 ＜委員＞：１－２「医療」の基本事業「地域医療」、成果指標「取り組んでいるプロジェクト数」について、目標値５つのうち４つはできていますが、１つだけ取り組めていないことに対する分析が課題の欄に書かれていません。 ＜会長＞：Ｂ欄で課題が分かるよう、担当課に促していただくようお願いします。 ＜委員＞：１－５「障がい者支援」の基本事業「障がい者支援」、成果指標「地域生活支援拠点事業 登録事業所数」について、障がい者の方の生活がどうなっているのかが読み取れません。行政側の視点で実績値を測っていますが、それで進展度が「◎」でよいのか疑問に思います。 ＜会長＞：本来はアウトカム指標で評価すべきですが、インプット指標やアウトプット指標になっていないかという指摘だったと思います。 次期計画策定中ですので、成果指標が適切に設定されているか点検して
--	--

いただければと思います。

分野2に進みたいと思います。事務局から説明をお願いします。

— 事務局「分野2 生活・環境」説明 —

＜委員＞：2-1「危機管理」、基本事業「地域防災力・減災力」、成果指標「地域の避難所運営マニュアルの策定率」について、全地域で避難所運営マニュアルの策定ができていないという課題がありますが、地域福祉ネットワーク会議が動いていない地域と重なると、地域コミュニティに問題があることが分かります。一つの指標ではなく複数の指標を合わせて見ることで、地域ごとの課題が分かると思います。

＜会長＞：計画の内容では、いかに横ぐしを通していくかが課題ですが、評価についても複数の指標を合わせることで課題が見えてくるのではないかという意見だと思います。

2-4「環境保全」の基本事業「環境保全意識の高揚・啓発」の成果指標「参加者の意識向上度」について、啓発イベント参加後どれだけ意識が向上したのかで評価していますが、イベントにはもともと環境への意識が高い人が参加しているので高い数値になると思います。環境への意識が低い人や、無関層にどう働きかけるかが課題だと思います。指標設定を検討いただけるとよいと思います。

＜委員＞：2-1「危機管理」の基本事業「ため池の適正管理」、成果指標「廃池実施数」について、目標値は20で適切なのか疑問に思いました。

＜会長＞：成果指標として適正なのか、ため池の機能について測ることができる指標なのか、情報提供いただければと思います。

＜委員＞：2-3「安心な暮らし」の基本事業「交通安全」、成果指標「人身事故件数」について、課題の認識が意識啓発をするという書きぶりに留まっています。意識啓発だけでなく、人身事故件数の原因分析をしてほしいです。

＜会長＞：意識啓発ではなく、原因究明とそれに基づいた踏み込んだ対策をしてほしいという指摘だったと思います。課題の抽出ができるようであれば担当課へ促していただきたいと思います。

＜委員＞：2-6「上下水道」の基本事業「上水道」、成果指標「地震に強い水道管路延長の割合」は年々増えて当然ではないですか。

また、施策評価シート（案）の事務事業の改善案【ACTION】では、水道料金の見直しという記述がみられますが、料金とは違う方向の改善案も考えてほしいと思います。

＜委員＞：２－６「上下水道」の基本事業「上水道」、成果指標「地震に強い水道管路延長の割合」について、0.2%ずつ上がってきていますが、100%にするには時間がかかります。進展度は「◎」でよいのか疑問に思います。

＜委員＞：目標値が9.5%であることは適切なのでしょうか。最終的な目標がもっと高い数値ならば、それに向けて早く事業を進める必要があると思います。

＜会長＞：成果指標についてのご指摘は、次期計画策定に反映されるべきですので、担当課に引き継いでいただきたいと思います。

令和７年度以降は別の形での評価になると思いますので。評価のあり方について、見直すところについては、「総括」でご発言いただければと思います。

では分野３「産業・交流」の説明をお願いします。

― 事務局「分野３ 産業・交流」説明 ―

＜委員＞：３－２「農業」の基本事業「農畜産物の生産振興」、成果指標「伊賀米の１等米比率」について、急激に下がっている年度は天候不順などが原因ではないでしょうか。地球温暖化で、伊賀米の育つ環境が大きく変化しているのであれば品種改良などの必要があると思います。原因を精査してアクションにつなげてほしいと思います。

＜委員＞：猛暑による１等米比率の低下は伊賀市に限った話ではないと思います。

＜会長＞：３－３「森林保全・林業」の「森林資源の利活用」、成果指標「未利用間伐材 搬出量」についても、数年前とは大きく状況が変化してきています。変化に対応できる計画や評価を考えていきたいと思います。

＜委員＞：３－１「観光」について、担当部署は産業農林部ですが、インバウンドや観光客は公共交通で来られることが予想されるので、人材育成や二次交通の整備、観光案内板など、他の担当部署と連携して取り組むことが必要だと思います。

３－４「中心市街地活性化」の基本事業「市街地整備」、成果指標「中心市街地の人口社会増」の進展度が「×」なっていますが、担当部署と連携

	して取り組まなければ進展度は「×」のままだと思います。 ＜委員＞：３－３「森林保全・林業」の基本事業「森林資源の利活用」、成果指標「未利用間伐材 搬出量」について、課題に「林業の持続的かつ健全な発展が望めない状況となっている。」と記載されていることが残念に思います。 また、Ｂ欄の「事業の進捗」が「その他」になっている理由は何なのでしょうか。 （事務局）：数値がないものや、測れないものについては「その他」とし、取組状況を記載しています。 ＜委員＞：３－２「農業」の基本事業「農業・農村の多面的機能維持向上」の課題の欄について、現状の課題だけでなく、これに対してどのように対策し、取り組んでいくのか記載してほしいと思います。 ＜会長＞：客観的に課題を把握してもらうことも大事ですが、課題に対して、市としてどう取組を進めていくか、方向性を決めて書いていただければと思います。 ＜委員＞：課題を認識しても解決への取組が書きづらい部分もあると思います。 ３－３「森林保全・林業」に関して、他地域から人が来て、林業で生活できるよう取り組んでいる地域もあります。 ＜委員＞：３－４「中心市街地活性化」の「市街地整備」、成果指標「中心市街地の人口社会増」について、中心市街地活性化は観光客やリピーターの増加、若者の就労などにもつながると思います。 ＜委員＞：昨年、中心市街地活性化計画を策定しましたので、来年度以降期待してほしいと思います。 ＜会長＞：観光も中心市街地活性化も、目標は未達ですが、数値は上がってきています。ただ、満足度が低いので、何を目指して何に取り組んでいるのかが、市民に伝わってないと思います。見せ方を検討してほしいと思います。 ＜委員＞：中心市街地の賑わいに関して、駐車場が作れないことや、公共交通機関が不便であることから、行きたいけれど行けないという問題があると思います。課題の欄にも「行き来しやすい交通手段等を検討する必要がある」と
--	---

	記載されているように、中心市街地のにぎわいのために、交通手段等を検討してほしいです。 ＜会長＞：施策のくくり方や基本事業のピックアップの仕方についてご意見をいただいてきましたが、４年前と比べて課題が複合化し、状況も変わってきています。次期計画の策定に引き継いでいただきたいと思います。 ＜委員＞：３－６「就業・起業」について、就職セミナーへの参加者が非常に少ないのが状況です。１－１「地域共生社会づくり」の基本事業「社会とのつながりや参加の支援」の課題の欄には、高齢者からの就労相談が増加している一方で、高齢者向け求人が不足しているということが記載されています。多様な人が働くことができる雇用環境の工夫がないと、数値は上がっていかないと思います。 ＜会長＞：施策評価シートの事務事業の改善案に、既存事業を進めていくという記載のみの事業もあるので、新規事業も含めて改善案を考えていただければと思います。 ―事務局「分野４ 生活基盤」説明― ＜委員＞：４－１「都市政策」の基本事業「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」、基本事業「誘導区域内への誘導率」について、令和６年度の実績値が５０％ということは半分の施設が誘導区域外に立地しているということになります。誘導区域は中心市街地活性化の区域と重なっていますので、誘導施策だけでなく中心市街地活性化の観点も含めて、中心市街地に様々な施設を立地させてほしいと思います。立地適正化計画の誘導は緩やかですので、中心市街地活性化の方策を使い、補助金を交付するなど、方法を検討していただきたいと思います。 ＜会長＞：立地適正化計画は都市計画や中心市街地活性化計画との連動が難しいと思いますので、アドバイスをいただきながら進めていただければと思います。 ＜委員＞：４－４「公共交通」について、伊賀鉄道の利用者はコロナ禍以降、徐々に回復傾向にある一方で、乗客数が少ないため、減便するという悪循環になっています。便数を元に戻すなど逆転の方策が必要だと思います。伊賀鉄道だけが負担することは困難なので、市からの補填も含めて考えてほしいと思います。
--	--

＜委員＞：伊賀市の取組で、通学定期券・通学回数券購入費の半額助成を行っており、通学の利用者は増加していますが、通勤の利用は戻っていません。

また、観光などの定期外利用は徐々に戻ってきていますが、高齢者の利用は減少傾向にあります。二次交通を含め対策を進めていく必要があります。

＜委員＞：空き家を公営住宅に転換できる仕組みはありますか。

＜委員＞：借上げ公営住宅という仕組みがあります。

＜委員＞：それを活用して空き家対策することは現実的ではないですか。

＜委員＞：空いていても持ち主が貸してくれないことや、分散していると管理できないという問題があります。

—事務局 分野5「教育・人権」説明—

＜委員＞：5－1「人権尊重・非核平和」の基本事業「人権啓発」、「参加者の意識向上度」について、まちづくりアンケート調査結果を見ると、年々満足度が下がっているのはなぜなのでしょう。事業に参加するのは人権に対する意識の高い方ですが、事業に参加されない方に理解を深めてもらうことが必要だと思います。

また、5－3「学校教育」の基本事業「学校マニフェスト」について、多文化共生が進む中で、初期適応指導教室が一つしか設置されておらず、現場の先生からも、もう一つ作ってほしいという意見があります。

＜委員＞：5－3「学校教育」の基本事業「学校マニフェスト」について、まちづくりアンケートの参画度が低いと思います。市内の小中学校はコミュニティスクールとして位置付けています。学校は家庭・地域と一体となって取組を進めていく方向性ですが、その部分についての記載が課題の中で出てきません。コミュニティスクールとしての観点から、参画度の低さを改善するための効果検証が必要であると思います。

＜委員＞：5－5「生涯学習」の基本事業「青少年健全育成」、成果指標「体験事業参加者数」について、進展度が「×」という評価ですが、令和5年度から令和6年度は急劇に増えているため、原因が分析できると、更に数値が伸びるのではないかと思います。

5－2「同和問題」の基本事業「隣保館・児童館・教育集会所」、成果指

標「年間相談 延件数」について、相談数が増えているということで進展度が「◎」となっていますが、相談事業は増えればよいか減ればよいかが難しいところです。同和地区の問題では、社会全体が経済的に厳しくなっていく中で同和地区にしわ寄せがいつてないか。社会的、経済的課題が相談に上がってきていけば、相談事業以外にもつなげていただきたいと思います。

＜委員＞：５－３「学校教育」の基本事業「児童生徒の支援」、成果指標「個別の教育支援計画・指導計画の作成割合」について、不登校の子どもは増加傾向にあることに対し、進展度が「◎」であることは、反比例しているように感じます。

タブレットの配布などが効果的か、児童生徒への支援方法が適切か疑問に思います。

＜委員＞：５－３「学校教育」の基本事業「児童生徒の支援」、成果指標「個別の教育支援計画・指導計画の作成割合」がどの年度も 100%なのは、法令や基準で策定を義務付けられているからなのではないでしょうか。指標として適切なのでしょうか。

＜委員＞：学校では、支援が必要と学校が判断した生徒には個別の支援計画、指導計画を立てて向き合おうとしています。そうした取組を行っていることから目標を 100%にしていると担当課から聞いています。

＜会長＞：毎年度 100%で、分母も分子も変わっているということですが、その変化が読み取れないことが課題であると思います。

＜委員＞：５－１「非核平和」について、世界中で戦争が起こっている状況で、基本事業「非核平和」の成果指標「中学３年生の平和への貢献度」の進展度が「△」なことは残念に思います。根本的に効果的な取組を考えていく時期かと思います。

＜委員＞：10名の中学３年生が広島の記念式典に行っていますが、その経験をどう生かすかということで、アンケート調査を行っています。学びをどのように伝えていったのかが、成果指標「中学３年生の平和への貢献度」で示されていますが、これだけで終わってはいけないので、もう一步踏み込んでほしいと思います。

—分野6「文化・地域づくり」説明—

＜委員＞：6－2「多文化共生」の基本事業「外国人住民への支援」、成果指標「伊賀市に住んでよかったと感じている外国人の割合」について、令和3年度から令和6年度にかけて割合が減少しています。ヘイトスピーチや差別的な体験をしている外国人が増加していることも関係しているのかなと思います。

＜委員＞：6－3「文化・芸術」の基本事業「文化・芸術振興」、成果指標「市民美術展覧会 出品者数、鑑賞者数」について、進展度で「×」がついていますが、現代アート等の、今までとは違ったアート展など、魅力的に見せる仕掛けがないと、今までと同じでは数値が上がることは期待できないと思います。

2点目、6－1「住民自治・市民活動」の基本事業「住民自治」、成果指標「キラッと輝け！地域応援補助金申請件数」の進展度が「◎」ですが、補助金を交付することで住民自治が活発になるわけではないので、地域の自治力が上がったのかが分かる成果指標を設定してほしいと思います。

＜委員＞：キラッと輝け！地域応援補助金を活用し、子ども食堂や学習支援など、継続して行っています。来月は防災訓練を行います。小学校では5・6年生で防災担当ができたので、今後は子どもが主体となった防災訓練をしたいと思っています。住民自治協議会として色々な取組ができてよかったと思います。

＜会長＞：補助金を交付し、どのような事業が行われ、どう自治力が高まっているかを評価できる指標の検討をお願いします。

＜委員＞：6－3「文化・芸術」の基本事業「文化・芸術振興」について、課題に書かれている、「市民や子ども達が伊賀の歴史文化を知り、地域への愛着や誇りを育む機会」については、施設の無料開放など、目玉になる取組があればよいと思います。

6－5「スポーツ」の基本事業「スポーツ振興」に関して、くノ一を身近に感じられないので、一定期間無料で観戦できる機会があればよいと思います。

伊賀鉄道の沿線にくノ一の練習場があるので、乗っていてすぐ見えるようアピールするなど、タイアップして考ええていただきたいと思います。

＜委員＞：6－6「定住・関係人口」の基本事業「魅力発信」、成果指標「ふるさと納

税人数」に関して、年々数値が伸びており、今後、目標値の 12,000 人の倍になることが考えられます。市としてはこの目標値を上げていく方向なのか、このままなのかが知りたいです。

また、基本事業「移住・交流」の成果指標「相談を通じた移住者数」は累計人数で評価していますが、世帯数で考えたらどうなるのでしょうか。世帯数の方が分かりやすいのではないかと思います。

＜会長＞：分野 6「文化・地域づくり」では、参画度、満足度も傾向分析がされていて、他の分野と比べてもアンケートを活用して積極的な評価をいただいています。

スポーツでは、20 代以下の参画度が激減したことが課題だと思います。アーバンスポーツの普及についての方向性の検証について課題に書かれていますが、若者目線の新しい施策が必要ではないかと思います。

では、事務局から分野 7 の説明をお願いします。

—事務局「分野 7 計画の推進」説明—

＜委員＞：7-4「広域連携」の基本事業「広域連携」、成果指標「共同研究参加者の満足度」について、年度によって満足度が増えていますが、原因についての記載がなく、なぜ下がっているのか分析しきれてないと思います。

7-1「広聴広報」の基本事業「広報活動」、成果指標「市ホームページアクセス数」の進展度が「△」ですが、今はホームページから情報をあまり入手せず、X（旧 twitter）やインスタグラムが多いと思います。指標を見直すことも考えないといけないと思います。

＜委員＞：ホームページのアクセス数が、令和 3 年に伸びている理由はコロナウイルスの流行でワクチンの接種予約などがあったからだと思います。

7-5「デジタル自治」の基本事業「デジタルトランスフォーメーション」、成果指標「オンラインで申請可能な行政手続の数」について、電子申請が普及すると、ホームページのアクセス数は下がってよいはずだと思います。今後は LINE など、ホームページ以外で情報を得ることができているかを測るべきだと思います。アクセス数ではなく、伝えるべき情報がしっかりと伝わっているかという考え方で指標を設定してほしいと思います。

また、デジタル自治では、電子申請率が上がっていないことを課題として指標を検討いただきたいと思います。

＜委員＞：7-5「デジタル自治」の基本事業「デジタルトランスフォーメーション」、成果指標「オンラインで申請可能な行政手続きの数」に関して、課題に、「業

務の一連の流れをデジタルで完結できる仕組みを導入することが必要である」と記載されていますが、本当にオンラインで完結できるものになっているかの点検をしてもらいたいと思います。介護保険の関係で最近利用しましたが、最後に被保険者証を郵送しなければなりません。他のオンライン申請にも紙が必要なものがあるかと思うので、点検が必要だと思います。

また、7-3「組織人事」の基本事業「職場環境の整備」、成果指標「ストレスチェックの受検職員割合」について、進展度が「◎」ですが、課題には「パワーハラスメントが発生した」と記載されています。抽出された課題にアプローチしていくような対策が必要なのではないでしょうか

＜委員＞：7-3「組織・人事」の基本事業「職場環境の整備」、成果指標「ストレスチェックの受検職員割合」の課題で、「多様な働き方を許容できるだけの人的余裕がなく、多様な働き方を支える側の職員の負担が過大となる状況がみられる。」と記載されていることについて、超短時間勤務の導入や、外国人との言葉の壁の問題などありますが、みんなで支え合っていかなければならないと思います。

＜会長＞：ストレスチェックの受検職員割合は100%でないといけないのではないかとといったご指摘は過去にもありました。課題が発見された際にどう対処するかも重要ですので、課題に書いてもらうよう検討いただきたいと思います。

＜委員＞：ストレスチェックの受検割合ですが、安全管理規定で100%でないといけないのではないですか。

（事務局）：受検しない職員もいるため、90%が目標値になっています。

＜委員＞：7-3「組織・人事」の基本事業「人事制度の運用と人材育成」の課題に「土木等の技術職が採用計画どおり確保できていない」とありますが、単にアピールするだけでは採用数を増やすことは難しいので、戦略的に考える必要があります。

近隣の土木過程のある専門学校をターゲットにするなど、早い学年から受けることができるようにすることなどがよいと思います。従来の手法では伊賀市を選んできれないと思うので、工夫してほしいと思います。

＜会長＞：総括案について、事務局から説明をお願いします。

—事務局 総括（案） 説明—

＜会長＞：この形式での外部評価は今年度で最後になるかと思います。評価の方法やアンケートの取り方などについてご意見をいただければと思います。

＜委員＞：施策評価シートの作り方にも課題があると思いますが、施策ではなく、基本事業の事業評価の側面が強いと感じました。施策は複数事業が組み合わさって展開されるので、施策が適切に評価される形になればよいと思いました。施策評価シートでは「伊賀流自治の視点」に、目標像が書いてあるので、この目標像にどれだけ近づいたか書いていただけると、施策の評価になると思います。

＜委員＞：これまでの施策評価を踏まえて、新しい総合計画の策定に意見を述べてきました。令和6年度の外部評価において、総括にこれまでの意見がどのように反映されるかを示してほしいと思います。

＜会長＞：評価意見を報告書に取りまとめるだけでなく、どう活用されたかが委員に見えるようになればやりがいも出ると思います。

4 その他

＜会長＞：その他の項ですが、事務局からお願いします。

—事務局 その他 説明—

外部評価意見シートの提出期限：6月30日（月）

第3回伊賀市総合計画審議会

日時：令和7年7月25日（金）午後1時30分～ 場所：伊賀市役所5階 501会議室

事項：第3次伊賀市総合計画最終案について、外部評価のまとめ及び報告書（案）について

＜会長＞：それでは、長時間にわたり慎重審議をいただきまして、ありがとうございました。進行を事務局にお戻しします。

（事務局）：熱心にご議論いただき、ありがとうございました。本日の審議会を終了させていただきます。